

高度医療人材養成拠点形成事業（高度な臨床・研究能力を有する医師養成）
タイプB 取組の概要と推進委員会からの主なコメント

代 表 校 名 (連携大学 名)	鳥取大学
事 業 名	横断的体制で挑む低侵襲医療技術教育・研究を支援する体制整備事業
事 業 責 任 者	鳥取大学医学部附属病院長 武中 篤
事 業 の 概 要	
教育と研究の両面から医師を支援する体制構築により、医師の教育研究時間を確保し、従来から取り組んできた①ロボット支援手術及び機器開発、②光線力学診断・治療、③バイオマーカー開発に関するハイレベルな低侵襲医療技術の臨床研究を推進する。これらは高齢化社会に求められる患者に優しい医療であり、また学生教育はもとより若手から熟練医のすべての医師が修得すべき技術で、医師の働き方改革時代において避けて通ることはできない。本事業は、鳥取低侵襲・ロボット手術研修センターや先進内視鏡センターなどで行うが、研究面では臨床研究支援部門の人員補強を行い、支援体制を強化する。また、バイオバンクユニットを新設し、機能強化を図る。教育面では、本学で開発した領域別の医行為研修到達度を管理できるステップラダーシステムの運用と充実化を行う。教育主任連絡協議会での好事例の共有やアプリの継続改良を行い、教育支援ロールモデルを目指す。	
推進委員会からの主なコメント ○：優れた点等、●：改善を要する点等	
○PDT/PDD 開発は期待できる。 ○ロボット支援手術の研究実績を積み重ねており、同領域で国際レベルの臨床研究の推進が事業に組み込まれている。 ○人件費を中心に、自己負担を組み合わせながら経費が計上されている。 ○3つの教育の概念が素晴らしい。 ○大学院コースや共学講座を通して専門人材の育成を行うことが立案されている。 ○医師だけができる業務に専念する環境を整え、論文化、実用化、社会貢献を達成目標としている。 ○ステップラダー方式はユニークで優れている。 ○教育支援室に統括講師、支援特命専門職を配置し、特徴的な診療参加型臨床実習が提案する。 ○研究推進機構、産学連携部により学外機関や企業等の連携体制を戦略的に構築しようとしている。 ○本事業により若手中堅医師の事務的作業の軽減を図り、働き方改革を推進しようとしている。 ○病院長の管理下で、新規医療研究推進センター、医学教育総合センターが管理を行う体制。 ○病院経費や外部資金の獲得により継続することが記載されている。 ●バイオマーカー領域の展望が不明瞭である。 ●国際レベルの臨床研究を推進するための具体的な戦略についても示すことが望ましい。 ●本事業における医学部生、大学院生への指導体制、評価方法等は読み取れなかった。 ●定量的指標の設定が望ましい。 ●本事業が臨床研究の推進や人材育成にどの程度貢献するのかが不明瞭である。 ●3つの重点項目において、どのような診療参加型臨床実習を実施するか示すことが望ましい。 ●タスクシフトをより具体的に示すと尚良し。 ●関係組織の連携が不明瞭である。 ●ロボット支援、光線力学、バイオマーカーの相互関係が明らかでなく相乗効果が見えづらい。	